

環境モデル都市 おびひろ

概要

- 人口17万人、総面積619km²
- 畑作や酪農を中心とした大規模農業経営を展開する十勝地方の中核都市
- 農業を中心とした「**田園環境モデル都市**」を目指す。

行動計画 二酸化炭素排出削減目標

2000年 1,459,517 t -CO₂/年

2030年 973,121 t -CO₂/年

削減量 486,396 t -CO₂/年
(33.3%)

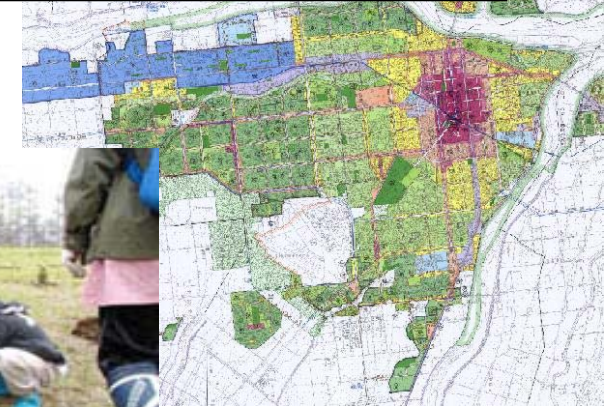
2050年 711,935 t -CO₂/年

削減量 747,582 t -CO₂/年
(51.2%)

住・緑・まちづくり

将来像

快適な都市環境が形成された社会
～森・水・住環境～



- 100年の大計で取り組む
「帯広の森」の育成・活用とみどりのまちづくりの推進
- 環境リサイクル施設の集積(仮称) エコタウンの造成
- 街灯、防犯灯の省エネ化
- 省エネ建築の促進
- 公共施設のストック活用と長寿命化

おびひろ発 農・食

将来像

農地の経済的、環境的価値が進展した社会
～食料供給・CO₂土壌固定～

- 自然と共生する循環型・環境保全型の地域づくり
- 地産池消の推進
- 広大な農地を温室効果ガスの吸収源とする取組みの推進



創資源・創エネ

将来像

- ◆化石燃料に頼らないエネルギー自給社会
- ◆地域資源の有効活用により産業が振興した社会
～バイオマス・太陽光～



- 豊富なバイオマスの活用
- 新エネルギー技術の導入促進とクリーンエネルギーの導入
- 太陽光発電の普及
- 燃料の天然ガス・LPガスへの転換
- 豊富なバイオマスからの水素製造

快適・賑わうまち

将来像

コンパクトなまちづくりや、環境負荷の少ない
交通体系が進展した社会
～まちなかの賑わい再生～



- おびひろまち育てプランの中心市街地活性化の具現化
- 環境にやさしい公共交通の利用促進
- 道路交通ネットワークの見直し、構築
- 自転車、歩行者利用環境の整備
- 自転車ツーリングの仕組みづくり



エコな暮らし

将来像

環境に配慮した生活実践が進展した社会
～「もったいない」運動～

- 全市民運動の展開
- ライフスタイルの変革
- ゴミリサイクル率の向上
- 木質ペレット等の普及
- 市民ボランティアの拡充
- 環境に配慮したエコ生活の実践



2009年度 取組みの主な成果

道路照明灯高効率ランプへの交換

削減効果: 568t-CO₂



市道3, 800基の道路照明灯（水銀灯）のうち
1, 316基を高効率ランプへ交換

太陽光発電の導入

削減効果: 444.5t-CO₂



補助実績 116件

家畜飼料自給率向上対策(エコフィード)

削減効果: 7, 497t-CO₂



生産量

2, 499t

防風林、市有林の植栽

削減効果 1, 542t-CO₂



防風林



5.24ha

5, 785本を植樹
(計画より125本増)

廃てんぷら油のBDF精製

削減効果: 348t-CO₂



廃てんぷら油の回収実績
140,000ℓ

【その他】市2施設における**ESCO**事業を実施。

国内クレジット試行制度に本**ESCO**事業の排出削減スキームを申請し、自治体としては初めてのクレジットとして認定。

2010年度主要事業

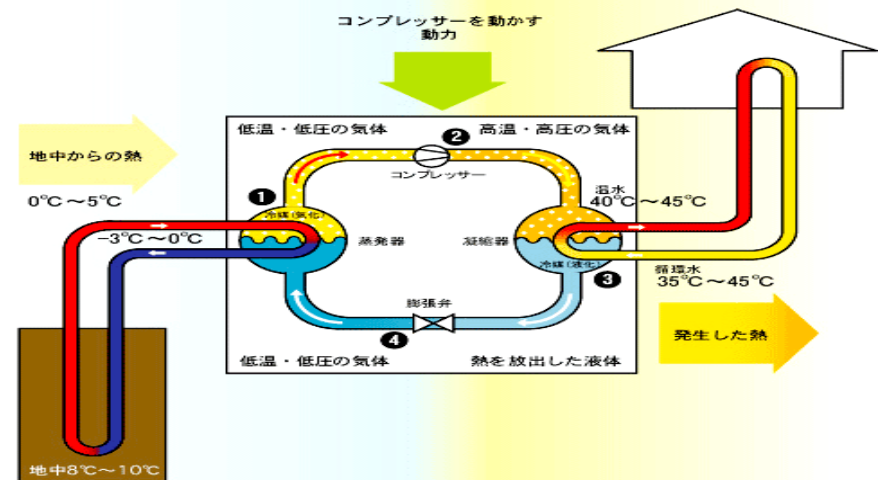
◆帯広市チャレンジ25地域づくり事業

【環境省、480,000千円】

『こうすれば25%削減できる』省エネ効果の見える化』

多様な業種が集積した街区で、民間4企業と協力の下実施

- 地中熱や排湯熱からヒートポンプで熱回収を行い、
冷暖房や融雪用灯油ボイラーに使用。
- 駐車場などに既存のH I D投光器を、L E D投光器に交換。



◆帯広市チャレンジ25地域づくり事業

【環境省、480,000千円】

『こうすれば25%削減できる』省エネ効果の見える化』

多様な業種が集積した街区で、民間4企業と協力の下実施

- 氷冷房システムにより、夏場の空調負担を低減。
- 床暖房の温度・CO₂制御及び間欠運転、さらに厨房給排気ファンのインバータ制御を行い、BEMS装置により日々の効果を確認、改善を行う。
- 道路照明灯の省エネ化を実施
(水銀灯⇒無電極放電灯(一部LED)に交換

LED照明灯	5灯
無電極放電灯	405灯



2010年度主要事業

◆緑の分権改革推進事業

【総務省、20,830千円】

エネルギーの地産地消

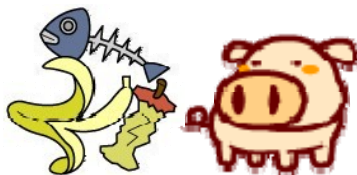
◎ 木質バイオマス

(森林、公園緑地、街路樹、一般家庭の剪定木等)



◎ 廃棄系バイオマス

(一般家庭・事業所等からの生ごみ、養豚場の糞尿)



賦存量調査

木質バイオマス変換施設・バイオガス
プラントの
実施調査及び事業性評価を行う。



◆地域バイオマス利活用交付金 【農林水産省、10,000千円】

- 「廃てんぷら油を回収し、精製後車両用燃料として利活用する家庭用廃食用油の再生利用モデル事業」(おびひろ・BDFプロジェクト)を実施

温暖化効果ガスの削減効果、
地域産業活性化への寄与、
環境保全への貢献度などについて
数値的評価を行う。



2010年度主要事業

◆ エコフィード 緊急増産対策事業

【農林水産省、6,550千円】

これまで廃棄されていたビートトップを
飼料化して利活用するため、
収穫機械化体系の実証試験、
発酵試験及び水分調整試験、
発酵TMR生産の普及促進に向けた
検討を行う。（協議会事業）

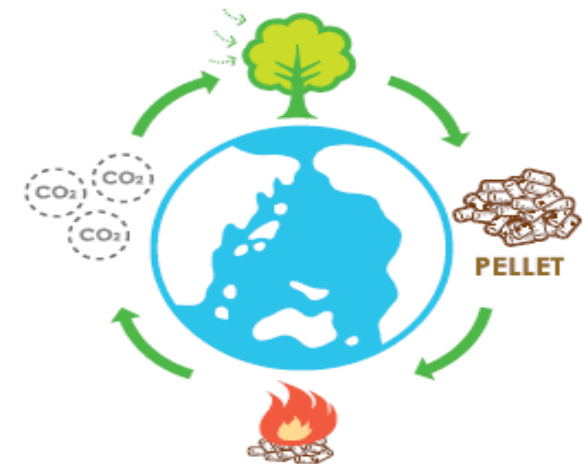


2010年度主要事業



◆カーボン・オフセット活用型 森林づくりモデル事業【北海道】

木質ペレットストーブによる
二酸化炭素の排出削減量を
市が集約化し、企業の協力により
市有林の整備を実施する。

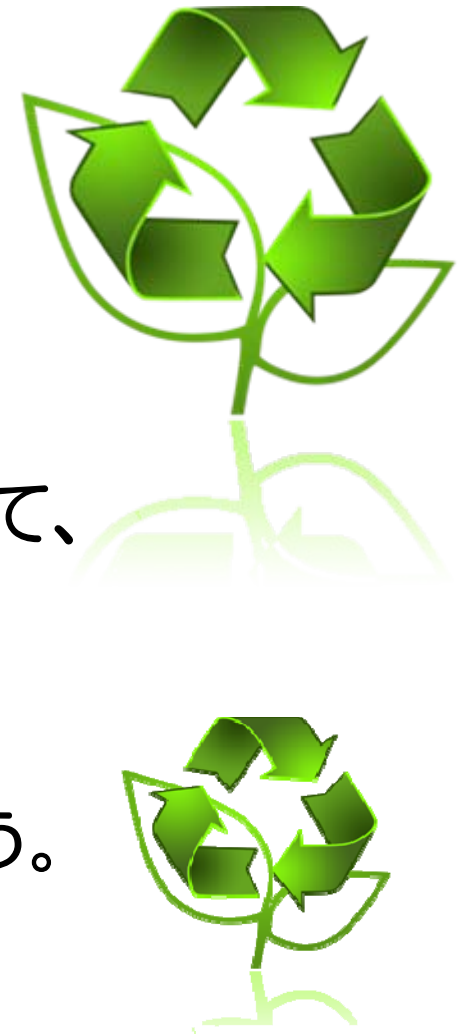


2010年度主要事業

◆帯広市環境基金の創設

【6月補正、11,177千円】

公共施設の省エネ化によって得られた
光熱水費削減額と企業等からの寄附を積み立て、
家庭部門からの二酸化炭素排出削減の
推進事業に財源充当する事で、
低炭素な取組みが循環する仕組みづくりを行う。



総合特区とは

- 国の「新成長戦略」において、
21の国家戦略プロジェクトとして位置づけ
- 地域の責任ある戦略、民間の知恵と資金、
国の施策の「選択と集中」の観点を最大限活かし、
規制の特例措置や税制・財政・金融上の支援措置等を
パッケージ化して実施

フードバレーとかち・イノベーションエリア

《 食・農・環境の一体的取組みによる農業を核とした
高度なイノベーション支援機能等の集積拠点 》

(フードバレーとかちの実現に向けて!!)

- 帯広畜産大学
- 農業・食品産業技術総合研究機構
(北海道農業研究センター)
- 北海道総合研究機構 (十勝農業試験場、畜産試験場)
- 道立十勝圏地域食品加工技術センター
- 十勝圏振興機構 など

帯広・十勝の強みを活かした成長戦略

「食と農」の拠点



○食料自給率1100%を誇るわが国有数の食料供給基地 帯広・十勝



食と農業・環境の融合による地域活性化

先駆的な環境への取組

○環境モデル都市選定
平成20年7月

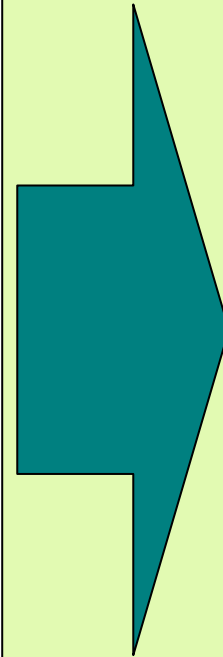


将来を見据えた戦略 (8つの視点と必要な取組み)

- ①食料自給率の総合的な向上 (自給率の向上と生産体制の充実)
- ②先駆的農業の展開 (最新の情報通信技術による高度な農業の展開)
- ③国際的な農業の展開 (農畜産物等の輸出促進、研修・技術制度の充実等)
- ④食農医連携による新たなビジネスの創出 (研修センターの整備)
- ⑤食関連産業の集積 (研究機関の立地促進、研究開発の推進等)
- ⑥バイオ燃料の利用促進
(バイオガス・バイオエタノール・BDFの高度化用)
- ⑦農業の環境価値の向上 (農畜産業を対象としたカーボンオフセット等)
- ⑧エコタウンの造成 (バイオマス、自然エネルギー関連施設の集積)

期待される効果

- 農畜産物輸出の拡大
- 食料自給率の向上
- 地域経済の活性化
- 観光産業の振興



わが国の
発展に
寄与



ご静聴ありがとうございました。